

2019年度 環境経営レポート

(2019年1月～2019年12月 対象期間)



2020年 4月 20日 発行

日野屋貿易株式会社

環 境 方 針

<環境理念>

私たちは、ますます深刻化する地球温暖化や、今後予想される地下資源の枯渇への対応が人類共通の重要課題との認識にたち、取扱製品の企画立案・設計・製造委託・販売等の事業活動において、環境負荷の低減を図るために、全社一丸となって自主的・積極的に、持続可能な環境保全活動に取り組みます。

<環境保全への行動指針>

1. 次の事項について環境目標・活動計画を定め、定期的に見直しを行い、継続的な改善を行い、汚染の予防に努めます。
 - ①電力・燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減
 - ②廃棄物排出量の削減（3R－減量、再使用、再生利用の推進）
 - ③水資源の節水意識向上、節水努力
 - ④自ら購入使用する商品のグリーン購入推進
 - ⑤自らが生産・販売・提供する製品商品及びサービスに関する環境配慮
 - ・ 資源の有効活用（ワンウェイ容器→リターナブル容器の紹介、販促活動）
 - ・ 廃棄物再生利用（リサイクル原料使用製品…パレット等の紹介、販促活動）
 - ・ その他環境関連商品（エコマーク商品等）の紹介、販促活動
2. 環境関連法規制及びその他の要求事項を遵守します。
3. 環境への取り組みを環境経営レポートとしてとりまとめ公表します。
4. 本方針を全従業員（パートタイマー含む）に周知し、社外へ公開します。

制定日：2009年1月20日

改定日：2013年1月20日

日野屋貿易株式会社
代表取締役社長 武山照夫

□ 登録事業所の概要

1. 事業者名及び代表者名
日野屋貿易株式会社
代表取締役社長 武山照夫
2. 所在地
本社／大阪営業所 〒541-0045 大阪市中央区道修町 1-2-11
姫路支店 〒670-0956 姫路市安田 3-100
3. 環境管理責任者名及び環境管理事務局担当者名
責任者 代表取締役社長 武山照夫 TEL06-6231-6331
担当者 総務課 前花美穂 TEL06-6231-6331
4. 事業の概要
設立 昭和22年8月
資本金 34百万円
売上額 約690百万円(2019年度)
従業員数 本社／大阪営業所…6名 姫路支店…3名
営業内容 商社 取扱商品…物流資材(コンテナ、台車、パレット、ボビン等)、
工業薬品、プラスチック成型品、LED、自動車用品等
事業年度 1月21日～翌年1月20日(活動対象期間は1月1日～12月31日)
5. 認証・登録の事業活動・対象事業所
事業活動 : 物流包装梱包資材・環境関連商品・自動車用品等の仕入販売
対象事業所 : 本社・大阪営業所、姫路支店

□ 主な環境負荷の実績

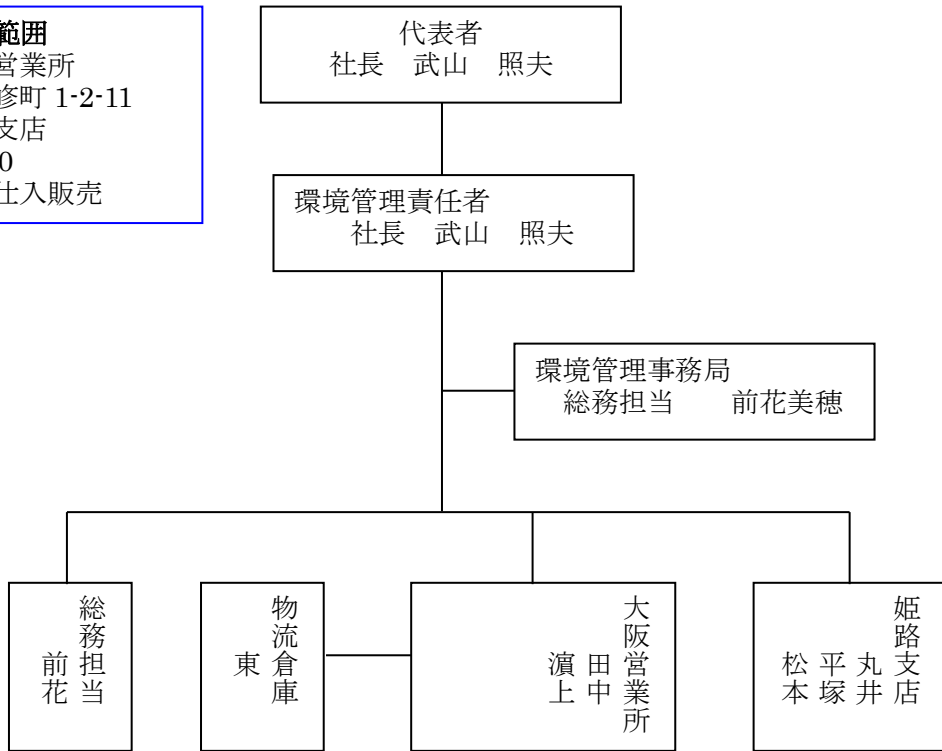
項目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
二酸化炭素排出量 kg-CO ₂ /年	27,956	28,726	24,271	23,319
電力使用量 kWh/年	17,251	18,057	12,580	11,978
ガソリン使用量 L/年	8,259	8,243	7,696	7,418
廃棄物排出量 kg/年	443	429	434	354

注1) 水使用量は、賃借オフィスで水道が共用となっており、数量を管理できない。

注2) 電力の二酸化炭素排出係数は関西電力公表の2016年度値0.509kg-CO₂/kWhを使用した。

日野屋貿易株式会社 環境経営実施体制

認証・登録の適用範囲
 住所：本社／大阪営業所
 大阪市中央区道修町 1-2-11
 関連事業所：姫路支店
 姫路市安田 3-100
 活動：物流資材の仕入販売



	役割・責任・権限
代表者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 経営における課題とチャンスの明確化 環境経営システムの実施及び管理に必要な、人、設備、費用を用意 環境管理責任者を任命 環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 環境目標の設定を承認 代表者による全体の評価と見直しを実施 環境活動レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理 法規制等の要求事項登録簿を承認 環境活動実施計画書を承認 環境活動の取組結果を代表者へ報告 環境活動レポートの確認
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐 環境への負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 「環境関連法規等チェックリスト」の作成 環境目標・環境活動実施計画書原案の作成 環境活動実施計画の実績集計 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 環境活動レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
部門長	<ul style="list-style-type: none"> 自部門における環境経営システムの実施 自部門における環境方針の周知 自部門の従業員に対する教育訓練の実施 自部門に関連する環境目標及び環境活動計画の実施及び達成状況の報告 特定された項目の手順書作成及び運用管理 自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成、テスト・訓練・記録 自部門の問題点の発見、是正、予防処置
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針を理解と環境への取組の重要性を自覚 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

□ 環境目標及びその実績

(1) 中期目標

項目	2016年度	2018年度	2019年度	2020年度
	基準年度(実績)	目標	目標	目標
二酸化炭素 の削減 kg-CO ₂	27,956	27,676 (1%削減)	27,397 (2%削減)	27,117 (3%削減)
電力の削減 kWh	17,251	17,078 (1%削減)	16,906 (2%削減)	16,733 (3%削減)
kg-CO ₂	8,781	8,693	8,605	8,517
ガソリンの削減(L)	8,259	8,176 (1%削減)	8,094 (2%削減)	8,011 (3%削減)
kg-CO ₂	19,175	18,983	18,792	18,599
ガソリン燃費向上 km/L	13.48	13.49 0.01km/L 向上	13.50 0.02km/L 向上	13.51 0.03km/L 向上
廃棄物利用率	86%	87% (1%向上)	88% (2%向上)	89% (3%向上)
節水意識向上 節水努力	節水標語貼付 2件	節水標語貼付 (新標語2件)	節水標語貼付 (新標語2件)	節水標語貼付 (新標語2件)
グリーン購入推進	情報収集2件	情報収集4件	情報収集5件	情報収集6件
ワンウェイ容器→リターナブル容器紹介販促	紹介販売80件	紹介販売36件	紹介販売38件	紹介販売70件
リサイクル原料 使用製品の紹介販促	紹介販売38件	紹介販売12件	紹介販売16件	紹介販売36件
その他環境関連 商品紹介販促	紹介販売42件	紹介販売24件	紹介販売28件	紹介販売55件

注1) 2016年度実績を新基準年度とした。注2) 二酸化炭素排出係数は2016年度値0.509kg-CO₂/kWhを使用。

注3) 廃棄物はすべて一般廃棄物である。注4) 廃棄物利用率：分母は廃棄物総重量。分子はダンボール等再生可能資源の合計重量。注5) 当社は化学物質を使用していない。注6) 2017年度で前中期目標期間が終了したので2018年度より新中期目標を設定。注7) 環境商品下から4項目2020目標は2018、2019実績を踏まえ数値を上げた。

(2) 対象期間(2019年度)の実績

項目	2016年度(基準年度)	2019年度		評価 結果と今後の方向(次年度の目標及び計画)
	実績	目標	実績	
二酸化炭素 の削減 kg-CO ₂	27,956	27,397 (2%削減)	23,319 ◎	空調管理、燃費向上など更に社員の意識向上をはかる。
電力の削減 kWh	17,251	16,906 (2%削減)	11,978 ◎	窓を開き、着衣調整など細かい温度管理、空調管理を行った。更に徹底を図る。
kg-CO ₂	8,781	8,605	6,095	
ガソリンの削減(L)	8,259	8,094 (2%削減)	7,418 ○	営業車をエコカーに切替えた。今後エコドライブ10のすすめを徹底していく。
kg-CO ₂	19,175	18,792	17,222	
ガソリン燃費向上 km/L	13.48	13.50 0.02km/L向上	13.95 ○	営業車切替え。エコドライブ10のすすめの徹底。
廃棄物再利用率	86%	88% (2%向上)	99% ○	廃棄物はほぼ全量再資源化出来ている。維持したい。
節水意識向上 節水努力	節水標語貼付 2件	節水標語貼付 (新標語2件)	新節水標語 貼付 2件	洗面所、手洗に管理会社とも協力して掲示した。今後も適宜掲示する。
グリーン購入推進	情報収集2件	情報収集5件	情報収集5件	取引先に情報収集を行った。自社購買も今後行う。
ワンウェイ容器→リターナブル容器紹介販促	紹介販売80件	紹介販売38件	70件 ◎	本来の営業の仕事であり、更に意欲を以って取組む。
リサイクル原料 使用製品の紹介販促	紹介販売38件	紹介販売16件	36件 ◎	再生パレットは実際に販売に結びついている。
その他環境関連商品 紹介販促	紹介販売42件	紹介販売28件	55件 ◎	LEDが貢献した。 更に拡販に努める。

注1) 2016年度実績を新基準年度とした(廃棄物再利用率は引越による特殊要因除いて81%)。注2) 二酸化炭素排出係数は2016年度値0.509kg-CO₂/kWhを使用。注3) 廃棄物は全て一般廃棄物である。注4) 廃棄物再利用率:分母は廃棄物総重量。分子はダンボール等再生可能資源の合計重量。注5) 排水は把握できないため行動目標とした。

注6) 当社は化学物質を使用していない。注7) 環境商品3項目の目標は過去の実績も踏まえ達成可能な数値とした。

注8) 凡例 ◎大幅達成(115%以上)、○達成、△やや未達成(97~100%未満)、×未達成、××大幅未達成(85%以下)。

環境関連法規制等の遵守状況

法的義務を受ける主な環境関連規制は次の通りである。

遵守すべき事項	適用される事項	評価
毒物及び劇物取締法	毒物劇物一般販売業登録及び毒物劇物取扱責任者を置く	遵守
資源有効利用促進法	パソコン廃棄時適正処理	廃棄無し
家電リサイクル法	エアコン、冷蔵庫廃棄時適正処理	廃棄無し
自動車リサイクル法	廃車時適正処理（引取業者、リサイクル費用）	廃棄無し
自動車NO _x ・PM法	自動車NO _x ・PMの削減努力義務	遵守
廃棄物処理法	産業廃棄物、事業系一般廃棄物の適正処理	遵守

環境関連法規制等の遵守状況の定期評価の結果、環境法規制の逸脱はありませんでした。

過去3年間に亘って違反や訴訟はありません。

□ 代表者による全体評価と見直しの結果

全般に取り組みやすいテーマは成果を挙げている。電力の削減については、空調管理を徹底し大幅達成となった。ガソリンの削減目標については燃費向上を目標数字に掲げた結果ほぼ達成した。燃費管理を更に推進し運転者の意識を高めていく。廃棄物再利用率は社員の意識が向上し、再利用率が向上した。環境配慮製品4項目（グリーン購入推進、ワンウェイ容器→リターナブル容器紹介販促、リサイクル原料使用製品の紹介販促、その他環境関連商品紹介販促）については今後更に情報収集、商品の知識習得とPR、販売促進を進めていく。

以上

2020年3月20日

代表取締役社長 武山照夫

私達は事業活動を通じて環境改善を目指します。次は一例です。



①リターナブル容器

- ・プラスチックダンボール製。
- ・使い捨て容器からの切替えに。
- ・セットアップ、折り畳みがワンタッチ。
- ・リベットもプラスチックで再生容易。



②リターナブル容器

- ・発泡プラスチックシート製。
- ・ワンウェイ容器からの切替えに。
- ・折り畳んで完全フラットになります。
- ・紙粉が出ない。水気に強い。



③廃プラ再生原料

- ・盤木（船体架台）、擬木など。
- ・ポリエチレン再生原料使用。
- ・写真は H350×W350×L 1500mm。
- ・森林資源からの切替えに。



④特定フロン・エタン代替

- ・工業用洗浄剤「ペトロセーフゾル」。
- ・フロン、エタンをしのぐ洗浄力、乾燥速度。
- ・毒物劇物法、有機溶剤規則に非該当。
- ・非危険物（指定可燃物）。



⑤ LED

- ・直管型、蛍光灯代替
- ・シンプル設計 → 低価格実現
- ・一般工場、野菜工場、植物工場
- ・消費電力大幅削減